



第43号

平成25年1月15日発行
 日本獣医生命科学大学
 同窓会
 東京都武蔵野市
 境南町1-7-1
 発行者 中條 眞二郎
 直通電話・FAX
 0422-33-2916
 E-mail dosokai@nvlu.ac.jp
 URL http://nvlu-dosokai.
 academic-sol.com/



記念碑

母校発祥の地で記念碑除幕建碑式が

執り行われた

母校130年の幕開けは、小澤温吉、黒須宗直、黒瀬貞次、柳澤銀蔵、木村典、一瀬直幸、小野打悦次郎、横山正令、田澤直孝の九名の先生方によって、「私立獣医学校」の名称で明治14年9月15日、文明開化と一緒に歩み出した。

初代の荒井義通校長は、陸軍獣医界の大御所で仏語練達、仏式獣医学を導入し華々しく開校を宣言、脈々と獣医学の使命が伝承され歴史の星霜を辿り、今日の母校の礎となっていることを確信します。

同窓会は、130周年記念事業として、母校発祥の地である護国寺の一隅に記念となる建碑を設置したいと願って準備をしていたところ、130周年記念式典・祝賀会に護国寺貫首岡本様のご臨席を戴き、我々同窓の意を斟酌戴けるのではないかと、日を改めてお願いに護国寺に伺いましたところ、思いも寄らず快諾を戴き念願の記念碑建立の運びとなりました。建立場所は、護国寺仁王門をくぐり正面に本堂を仰ぎ、本堂に向かつて階段の登り口水屋の右手です。

除幕建碑式は、平成24年10月17日、大宴の日に、岡本貫首他7名の僧侶により執り行われ、貫首から後世に遺したい「表白」(後頁添付)を戴き、厳かな式になりました。

当日は、学校法人赫彰郎理事長、山下精彦、隈崎達夫、高野照夫各常務理事、佐藤雄三理事、日本医科大学から田尻孝学長他、日本獣医生命科学大学から池本卯典学



除幕式

長、新井敏郎、阿久沢良造両学部長、各委員会の代表教員他、池浦事務部長・事務職員、学生代表、同窓会から中條眞二郎会長他役員と理事、全国の同窓生など50名が参加した。

式の後、参加者全員が焼香し先達の功績を讃えさらなる発展を祈願した。

碑は神奈川県根府川石に「私立獣医学校発祥の地」と岡本貫首の直筆を戴き、裏

面には以下の略歴が刻まれている。
 明治14年9月15日「私立獣医学校」当地で開校、
 明治25年11月「東京獣医学校」
 明治44年3月「日本獣医学校」
 昭和13年4月「日本高等獣医学校」
 昭和20年1月「日本獣医畜産専門学校」
 昭和24年2月「日本獣医畜産大学」
 平成18年4月「日本獣医生命科学大学」
 平成23年9月 130周年を記念し建立
 学校法人日本医科大学
 日本獣医生命科学同窓会



同窓生には、是非一度足を運んで頂き記念碑の前で色々の想いを馳せると同時に護国寺さんに感謝の意を表して頂ければ幸いです。

会長 中條眞二郎

大本山護国寺(東京都文京区大塚5-40-1)と記念碑のご案内

地下鉄有楽町線、護国寺下車出口1を出てすぐ左手が護国寺の仁王門です。
 記念碑は仁王門を入り正面階段手前の右手奥にあります。

私立獣医学校発祥之地記念碑開眼表白

敬て真言教主大日如来西御部会諸尊聖衆、殊には、本尊聖者如意輪觀世音菩薩、諸大眷屬、總じては盡空法界一切三寶の境界に白して言く。

夫れ惟れば日本獣医生命科学大学は明治十四年九月十五日當山境内の一角に私立獣医学校として開校発足し、平成二十三年には実に百二十年を迎えるに至る。開校以來幾星霜激しい時代の変遷を経て、幾多の曲折苦難を乗り越えて来たれり。特に第二次世界大戦での敗戦による社会の激変に対しては我が国復興の機運に沿って改革を進められたり。而して平成十五年よりは日本獣医畜産大学から日本獣医生命科学大学へと校名を改め、我が国の畜産に又安全な食糧生産という国民生活の基本的分野での多大な貢献に加え、新時代に対応する研究並びに人材育成を進めるなど飛躍的發展を遂げられつあり。

茲に学校法人日本医科大学及び日本獣医生命科学大学同窓会殿は同校創立百三十年周年を記念し、発祥の地である護国寺境内に記念碑建立を發願せり。當山もその志を了とし、本日その開眼法要を嚴修するに至る。

願はくは本尊薩埵、願主の淨願を照覽し賜ひ、幾多の畜獸諸靈の鎮魂と願主の諸願成就に大威神力を垂れ給わらんことを

乃至法界 平等利益

維時 平成二十四年 十月十七日

真言宗豊山派 大本山 護国寺

第五十三世 大僧正 永司

敬白

平成の開化

日本獣医生命科学大学同窓会会長

中條 眞二郎



同窓生の皆様、政治・経済に希望が持てないます「頑張れにつぼん」の標語を糧に過ごされていることと拝察申しあげます。本年度は、母校130年の歴史の重みをしっかりと胸に刻み、先輩・同輩・後輩の多くの同窓生の顔を浮かべながら同窓会の運営に労を惜しむことのないよう心懸けて参りました。

東日本大震災から2年近くになるうとしています。刻の経過と共に忘れ去られることはないでしょうが、風化されてしまうのではないかと心配です。

未だに原子炉から放射能が拡散、新聞の隅に一年前と変わらぬ各地域のシールド数が掲載されています。何年先にこの記事が消えるのでしょうか。津波に流された被災地の街並みは瓦礫が野積みされ、青いシートで覆われたままです。何時あの昔の街並みが戻るのでしょうか。誰がどこで復興させる青写真を作製しているのでしょうか？先行きが見えません。テレビ・新聞に取り上げられている支

援・補償の対象は、ヒトで、物言わぬ動物のことは置き去りされてはいいのでしょうか。国を挙げての復興を早期に望んで止みませんが、放射能をあびた牛、豚・鶏などは殺処分されたのでしょうか、飼いがなくなつたペットは？野鳥・野生動物は？これら動物への対応はどうするのかも見えもしないし聞こえても来ません。同窓生には、これらの生物と関連した職業に従事している卒業生とか、何らかの関連した職域に身を置いて苦労されている人が多くいると思います。同窓会も微力ながら風化させないよう発信し続けたと思います。

母校の話題…母校を取り巻く処々の状況は、世界的な経済不況が日本全体を底冷えにし、切実な問題として受験生の少子化による激減は、母校のみならずいずれの大学も経営の逼迫に頭を痛めているようです。幸い母校は教職員の努力で定員割れの学科はないようですが油断出来ない状況に変わりはありません。母校は、近年ハード・ソフト面で大きな変貌を遂げました。建物の面では、同系の他大学に比べ施設整備の不備が指摘され続けた状況から抜けだし、動物医療センター建設に引き続き図書館・教育棟・体育館兼講堂が整備され大幅に改善されました。動物医療センターについては、当初から六年制の獣医学教育の臨床教育を行う面積を満たしていた訳ではありません。酪農学園、北里大学、日本大学など学生定員数にみあった病院を建設または計画しているようです、母校も追隨して増

設の検討をせざるを得ないようです。現在、第一校舎の残りの運動場であった南側に、17,000平方メートルの地下一階、地上七階の規模を有する、母校で一番大きな建物となる合同教育棟建設が始まりました。これは獣医保健看護学科の教育・研究施設の必要性と第二校舎が耐用年数を迎えて直ちに迫られ、応用生命科学部の動物科学科と食品科学科の充実した施設整備が遂行されます。

この建物は、130周年記念の事業として建設中で仮称・合同教育棟と言いますがその所以は、当教育棟に武蔵小杉にある日本医科大学の基礎科学部門が移つてきます。平成26年度より日本医科大学と日本獣医生命科学大学の両学生が共に同じキャンパスで一緒に学ぶこととなります。

学校法人日本医科大学傘下の母校経営方針は、当然決定権は法人にあり21世紀を乗り越える安定した財政の確保と、先端的な教育・研究を維持発展させるために両大学の統合によって、両大学の力を結集しなければならぬ時代が到来したなどの意見もあります。合同教育棟で行われる交流が両大学にどのような効果をもたらす発展に繋がるのか、同窓生の皆さまも想像を巡らして下さい。

ITの進化が教育現場に対し、大きな改革をもたらすであろうと予想はついておりますが、パソコンからiPadと教育現場に入り込むと、その応用は果てしなく広がり、教育現場を変えることが予想されます。単に新聞、小説等を読むものと思つていましたが、

教員の講義内容がワンタッチで目にする事になり、教科書が必要なくなり、携帯電話同様iPadが必需品となるようになります。

学生全員がiPadを持って通学するのも時間の問題です。学生は、レベルの高い内容の講義がいつでもどこでも受けることができ、母校教員の講義内容ばかりでなく他の大学の先生の講義内容も容易に修得できるようになると、今以上に教員の質が問われる時代が押し寄せ、従来の学生・教員の関係なども変わってしまうのではないのでしょうか。講義・試験をはじめ出欠など学生の管理を含めた、大学事務業務も変らざる得ないと思います。機械に人間が支配されるかも知れないのは冗談でなく、より温もりのある学生生活を送れる環境が求められる時代になるかもしれません。

同窓生・学生の動向…総数約1,700名を越す学生が、第一校舎で学習しております。男女比1…3で1,000名以上が女子学生の大学となりました。獣医保健看護学科の男女比は当然女性が多いようですが、他の三学科は半々のようです。同窓会員数もいずればこの比率の女性優位の同窓会になることと予想しています。

同窓会運営の今後の取り組みについて…昭和42年に定員60名の食品工学科が新設されて、卒業生が出て40年です。卒業時現役入学生の学生であれば一期卒業生は、62才になります。一年後には畜産経営学科として畜産学科が再開しましたので同様卒業生は61才になり

ます。浪人して入学された方はそれぞれの年配になられますから、学生時代が懐かしくなる年齢ではないでしょうか。数年前から両学科の同窓生が獣医学科の同窓生を上回ることを報告し会員数に見合った、両学科の各県支部会への参加、本部役員への参加を呼びかけてきましたが実績が上がりませんでした。学科を意識しない学生時代のクラブ活動のように同窓会の運営活動に参加を期待しましたが、やはり卒業後、社会に出てそれぞれの違った社会生活を過ごした環境に馴染み、分野の違う同窓の会合などには足が遠のくのは当然なのかも知れません。

日本獣医生命科学大学卒業生が一同に会し、和気あいあいと行える同窓会が理想であろうと活動していますが、会を取り巻く環境の変化が急速に進み、学科の増設が行われた当初は、時代背景も今とは違って学生同志の交流も強く、同窓会活動もその延長として運営を行ってきました。小さな大学ですが学生数が1,700名になると学生間、学科間の交際も希薄になっていくかも知れません。女性の同窓生が圧倒的に多くなることも見据え、このような大きな変動を問題視した会の運営を見直す活動も行ってきました。大学も大きく変貌したように、同窓会も、時代に乗り遅れることのないよう平成の開化の歴史を刻めればと思いますので、同窓皆様のご理解と支援協力をお願い致します。

平成二十四年度 同窓会理事会・代議員会開催

去る平成24年7月21日、代議員会に先立ち午前10時より理事・監事会が開催され、代議員会提出の議案書について審議が行われ全ての議案が承認された。

午後1時より、開会に先立ち物故会員のご冥福を祈って黙祷が捧げられた。吉田事務局長の開会宣言により代議員会が開催された。

会長挨拶

本日は、ご来賓として学校法人日本医科大学赫理事長、池本学長にご来席いただきありがとうございます。池本先生には、学長を2年間延長ということで我々としては非常にうれしく思います。同窓会としても池本先生を全面的に支援していく所存です。昨年度は、東日本大震災と福島原発事故と大変な災害に見舞われ、会員の中にも被災された人もいます。早速にお見舞いを用意したのですが、岩手、宮城、福島支部の同窓生の動向すらまだ不明ということで、予算執行をできない状況です。光栄にも130周年記念式典に常陸宮殿下妃殿下をお迎えし、盛大に開催されました。130周年の事業の一環として既知住所の全同窓生1万名に会員名簿をお送りしました。

平成24年度は、130周年記念事業の一環として進められている合同教育棟の建設

があります。7月14日に地鎮祭が行われ、日本医科大学の基礎科学部門と日本獣医生命科学大学の応用科学部、獣医保健看護学科、地下に武道場を備えた学生福利厚生施設が平成26年3月に完成する予定です。支援・協力の募金活動を継続して行っていきたいと思えます。

来賓挨拶

学校法人日本医科大学赫理事長 本日は、日本獣医生命科学大学の同窓会代議員会にお招きいただきましてありがとうございます。日頃からも同窓の先生方々のご支援、心から感謝申し上げます。先ほど中条会長からお話りましたが一週間前の土曜日に、合同教育棟の新築工事地鎮祭が行われました。この合同教育棟の建設は130周年記念事業の一環ですが、それに対して同窓生の皆様から多額なご寄附をいただきましたことを改めて御礼申し上げます。

合同教育棟、文字通り日本獣医生命科学大学と日本医科大学の基礎科学をこちらで勉強させていただくことです。昭和27年に両法人が合併し、一法人二大学となりましたが、いずれも130年の歴史と伝統のある大学です。人と動物の違いこそあれ生命科学を追求する目標で似た大学でありますので、いまでも研究面におきまして両大学の教授陣等が互いに協力し合っている

な研究を活発に行えるようになりました。今度の合同教育棟は教育面におきまして学生あるいは教員の交流もよりいっそう高まるのではないかと期待しております。また、学部を超えた学生間の交流は、ものご考え方の多種多様にも触れることができ、相手を思いやる気持ちも持てますし、人としての教育には非常に有効だと私は考えております。そのことはさらに教育の相乗効果があるのではないかと期待しております。実は私も、日本医科大学学生時代の昭和26年から2年間ここで勉強し、獣医の方々と交流した思い出があります。今後、学生間の交流を活発にしていきたいと思っております。

ご存知のように昨今、少子高齢化で大学に進学する絶対数が極端に少なくなっています。2025年には本当に激減いたします。この両大学とも現在、受験者数が少なくなったことは多少あっても、定員割れはなかったのですが、都内の有名大学でも定員割れをきたしております。今、私立大学の定員は深刻な問題となっており、これから大学は淘汰されていくことが想定されます。それには、私どもも常に社会から期待され、輝いていく大学を目指さなければなりません、それには常に教育の質というものを高めていかなければならないと思います。今回、合同教育棟ができますと、おそらく教育に関する施設面では非常に誇れる大学になると思います。これから、文科省

が示した教育指針として、主体的に考え主体的に学ぶとして行動するような力をつけるような教育の質の改革を求める指導が出ております。また、グローバル時代に対応できるような人材教育を行い、あるいは大卒からの研究成果をもっと多く発信し、研究の充実をも目指すということが必要だと思えます。今後、いろいろな問題がたくさんありますが、こちらの教育陣を中心に十分対応するように着々と進めております。今後とも法人としては、ますますの教育の充実を力を入れていく所存ですので、同窓の先生方にご協力をお願いいたします。

議長選出…規約により、代議員の中から議長を募ったが立候補者、推薦が無く、執行部案の福岡周孝氏(熊本県支部)と山岸敦



学校法人日本医科大学赫理事長挨拶



代議員の参加者

郎氏（埼玉県支部）を指名し拍手で承認された。
書記及び議事録署名人選出…書記は予め事務局よりお願いした戸張由美子さん（日本獣医生命科学大学 大学院生）、議事録署名人には左向敏紀氏（大学支部）と新井敏郎（大学支部）二名が事務局より推薦され拍手で承認された。

両議長より本日の出席者数の報告があった。来賓2名、顧問1名、常務理事11名、理事21名、監事3名、代議員59名、オブザーバー7名で本会の成立が確認された。
第1号議案 平成23年度事業報告…総務担当相見常務理事より報告。
 明治14年、護国寺に開校以来130周年を祝う年でありましたが、東日本大震災に

見舞われ多くの犠牲者と甚大な被害がもたらされました。

さらに、追い討ちをかけた原発災害は日本全体を意気消沈させ、国民が「がんばろう日本」を掲げ前向きにならなければならぬ年となりました。

母校130周年式典・祝賀会は、先年から学校法人日本医科大学主催による準備を行ってきました。平成23年9月18日（日）帝国ホテルにて同窓生、各関係の皆様が多数参加のもと開催されました。記念式典では常陸宮殿下妃殿下をはじめ鹿野農水大臣、石破衆議院議員のご来賓の栄とお祝いのお言葉を賜り盛会裡に終えることができました。

130周年の記念事業として、応用生命科学部、獣医保健看護学科の教育・研究施設だけでなく、武道場の新設、東大農場（西東京市）に運動場を確保するとして学生の厚生施設が画期的に充実されます。この記念事業に関して、会員にご協力と支援活動を継続事業として行っており、実施事業

- 1 平成23年度代議員会開催
平成23年9月17日（土）、午後1時より、母校B棟第三階 313講義室にて開催
- 2 役員会および各種委員会等の開催
- 3 おもな行事への参加
- 4 支部会への派遣（別表参照）
- 5 会報42号発行…平成24年1月15日
- 6 大学への支援…梅野信吉賞記念盾および

び副賞を贈呈

- 7 東日本大震災における岩手、宮城、福島3県への支援
- 8 学生（準）会員への事業

- (1) 入学祝い
- (2) 卒業記念
- (3) 同窓会長賞…各学科卒業生1名に賞状と記念品
- (4) 大学祭への支援
- (5) 就職支援活動
- (6) 奨学金支給…獣医保健看護学科学生1名

拍手により承認。
第2号議案 平成23年度収支決算
 総務担当寺田常務理事より報告

- 収入の部…別表参照
- 支出の部…別表参照
- 財産目録…別表参照
- 平成23年度業務・会計監査報告

監事役の武富氏、針谷氏、栗本氏より正しく施行されているとの監査報告があり、拍手により承認された。
第3号議案 平成24年度事業計画（案）…総務担当相見常務理事より説明。

大学を取り巻く経済状況は、大学の運営に影響を及ぼし、更に少子化問題が現実的となり4年制大学の定員割れを起こしています。今後、母校の受験生募集も厳しい状況になることが予想されます。
 母校のような単科大学は、総合大学に比べ経営上不利であると云われています。こ

これらの状況を踏まえ、母校も総合大学への選択肢を模索しなければならぬかも知れません。現在まで、施設の充実を語ってきたのは総合大学を見据えた整備ではなかったものと思います。

130周年記念事業計画の大学側の合同教育棟建設計画に含まれる、学生の厚生施設が充実されることが喜ばしく、また将来のいかなる状況にも対応し得る重要な意味を持つ事業と考えられます。記念事業の達成に何卒皆様のご支援・協力をお願い致します。

- 実施事業予定
- 1 平成24年度代議員会
平成24年7月21日（土） 母校B棟3階 313講義室にて開催
 - 2 母校創立130周年記念事業の募金活動を継続し支援・協力
 - 3 母校発祥の記念碑を護国寺に建立し後世に遺す
 - 4 同窓会館設立の準備
 - 5 役員会および委員会等の開催
 - 6 支部強化活動
 - (1) 代議員非派遣支部に対するオブザーバー派遣要請
 - (2) 支部会への役員派遣
 - 7 同窓会誌…130周年記念誌発行予定
 - 8 同窓会報43号発行
 - 9 同窓会会則の基本方針の設定
 - 10 大学への支援
 - (1) 梅野信吉賞への協賛

11 学生会員（準会員）への関連事業
 (1) 入学祝い
 (2) 卒業祝い
 (3) 同窓会褒賞者の表彰・記念品の贈呈
 (4) 大学祭への援助
 (5) 奨学生候補者の選考
 (6) 就職活動支援

第 4 号議案 平成 24 年度収支予算（案） ..
 経理担当寺田常務理事より説明
 平成 24 年度一般会計収支予算書（案） ..
 別表参照
 平成 24 年度特別会計収支予算書（案） ..
 別表参照

第 3 号議案、第 4 号議案は拍手で承認された。
第 5 号議案 役員変更の承認
 副会長（動物科学科選出） 前川 勝文氏
 から小磯 孝氏に変更
 理事（茨城県支部） 荒木 昭雄氏から小
 沼 誠氏に変更
 拍手で承認された

議長・・以上よりすべての議事が承認されま
 した、ご協力ありがとうございました。
 吉田事務局長の閉会宣言により代議員会は
 無事終了した。

平成 24 年度代議員会終了後、母校“カフ
 エテリアむらさき”において懇親会が開催
 された。懇親会は学長も参加され和やかな
 雰囲気であった。会場には合同教育棟の
 模型、設計図、完成予想図などが展示さ
 れ、変貌を遂げる母校の将来に感動する同
 窓生の姿も見られた。

財産目録
 平成 24 年 3 月 31 日

(単位：円)

科 目	金 額	
I. 資産の部		
1. 流動資産		
(1) 現 金	50,000	
(2) 普 通 預 金	31,774,403	
①三菱東京 UFJ 銀行 (3935838)	7,264,846	
②三菱東京 UFJ 銀行 (1233022)	2,012,215	
③三菱東京 UFJ 銀行 (5015167)	7,077,746	
④三菱東京 UFJ 銀行 (5015159)	390,199	
⑤三菱東京 UFJ 銀行 (1741549)	15,029,397	
(3) 定 期 預 金	50,140,000	
①三菱東京 UFJ 銀行 (0002747)	50,140,000	
(4) 郵 便 振 替	7,458,295	
(5) 未 取 金		
流動資産合計		89,422,698
2. 固定資産		
(1) 土 地 建 物	0	
(2) その他の固定資産 (什器備品及びパソコン、ソフト)	645,489	
固定資産合計		645,489
資産合計		90,068,187
II. 負債の部		
1. 流動負債		
(1) 未 払 金	0	
(2) 前 受 金	0	
流動負債合計		0
2. 固定負債		
(1) 名簿発行引当金	2,012,215	
(2) 同窓会館引当金	61,802,189	
(3) 奨学基金引当金	7,077,746	
(4) 退職給与引当金	390,199	
(5) 減価償却引当金	4,046,484	
固定負債合計		75,328,833
負債合計		75,328,833
正味財産		14,739,354

**支部会への派遣
 (21支部・2連合会へ派遣)**

支部名	派 遣	日 時
愛知県支部総会	左向教授	平成23年 6 月19日(日)
東京多摩支部総会	中條会長	平成23年 6 月25日(土)
大阪府支部総会	中條会長	平成23年 7 月30日(土)
新潟県支部総会	中條会長	平成23年 8 月 6 日(土)
九州連合会	皆上助教	平成23年 8 月27日(土)
香川県支部総会	中條会長	平成23年 8 月28日(日)
千葉県支部総会	池本学長	平成23年 8 月28日(日)
四国連合会	中條会長	平成23年 9 月10日(土)
広島県支部総会	中條会長	平成23年 9 月25日(日)
宮城県支部総会	中條会長	平成23年10月 8 日(土)
茨城県支部総会	中條会長	平成23年10月15日(土)
佐賀県支部総会	寺田常務理事	平成23年10月23日(日)
群馬県支部総会	中條会長	平成23年10月23日(日)
神奈川県支部総会	中條会長	平成23年10月29日(土)
山梨県支部総会	新井教授	平成23年11月 7 日(月)
熊本県支部総会	中條会長	平成23年11月19日(土)
石川県支部総会	福所教授	平成23年11月19日(土)
長野県支部総会	中條会長	平成23年11月26日(土)
静岡県支部総会	吉田常務理事	平成24年 2 月 4 日(土)
福岡県支部総会	片岡准教授	平成24年 3 月10日(土)
岩手県支部	寺田常務理事	平成24年 3 月17日(土)
京都府支部総会	中條会長	平成24年 3 月24日(土)
三重県支部総会	中條会長	平成24年 3 月25日(日)

平成 23 年度監査報告書

平成 23 年度同窓会業務並びに会計の収支決算を
 平成 24 年 4 月 26 日母校において厳正に監査した結果、
 証拠書類等、正しく執行されていることを認めます。

平成 24 年 4 月 26 日

監事 武富和夫 印
 監事 針谷光二 印
 監事 栗本卓夫 印

第2号議案 平成23年度収支決算

平成23年度一般会計収支計算書

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

収入の部

(単位:円)

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異, 摘要. Rows include 1 同窓会費収入, 2 入会金収入, 3 諸収入, 受取利息, 寄付金, 奨学基金取崩, 記念事業積立金取崩, 雑収入, 当期収入合計(A), 前期繰越金, 収入合計(B).

第4号議案 平成24年度収支予算

平成24年度一般会計収支予算書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

収入の部

(単位:円)

Table with 5 columns: 科目, 本年度予算額, 前年度予算額, 増減, 摘要. Rows include 1 同窓会費収入, 2 入会金収入, 3 諸収入, 受取利息, 寄付金, 奨学基金取崩, 記念事業積立金取崩, 雑収入, 当期収入合計(A), 前期繰越金, 収入合計(B).

支出の部

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異, 摘要. Rows include 1 事業費, 2 会議費, 3 事務費, 4 特別会計繰入金, 5 固定資産取得費, 6 予備費, 当期支出合計(C), 当期収支差額(A)-(C), 次期繰越収支差額(B)-(C).

支出の部

Table with 5 columns: 科目, 本年度予算額, 前年度予算額, 増減, 摘要. Rows include 1 事業費, 2 会議費, 3 事務費, 4 特別会計繰入金, 5 予備費, 当期支出合計(C), 当期収支差額(A)-(C), 次期繰越収支差額(B)-(C).

平成二十四年度
**日本獣医生命科学大学九州地区
 同窓会開催報告**

九州地区同窓会代表 中村 完治

長崎県平野支部長のもと、平成24年8月25日ハウステンボスにおいて開催された。母校より多川教授、新井教授を迎え学術講演と大学の近況の話など充実した会となった。九州地区同窓会は約15年前に故高橋健先生の発案で、同窓会の充実化、大学との一貫性を目的として発足した。現在では8県合同の支部長、事務局長会議で意見交換ができるまでになった。今回は宮崎県で開催予定である。



事務局だより

○同窓会本部への連絡

通常、土日祝日を除く午前10時から午後4時まで事務員が勤務しています。それ以外の時間は留守番電話、ファクシミリ、郵便、Eメール等でご連絡下さい。連絡先は本会報一面に記載してあります。

○会費納入のお願い

本会の事業は、会員の会費納入によって運営されております。平成26年発行の会員名簿等は会費納入者に無料配布される予定です。本会報に振込用紙が同封されている方は個人で会費納入をお願いいたします。なお、振込用紙が同封されていない場合は支部の指示に従って納入をお願いします。郵便局の振り込み取扱票にはお忘れなく郵便番号、住所、氏名を記載し、通信欄には卒業学科と卒業期（封筒の住所ラベルの区分）記載してください。住所等変更のある方は取扱票の通信欄記載の変更有りに丸印してください、本部事務局の登録変更を致します。

○本部年会費一括納入支部へのお願い

本部会費を一括納入される支部は、会費納入者名簿を事務局へ郵送、ファクシミリ

り、メールでお送り下さい。

○住所録変更届け

住所、氏名、職業等の変更はハガキ、ファクシミリ、メール、同窓会ホームページなどから変更届けをご提出してください。電話での連絡は記載ミスなどの要因となりますのでご遠慮ください。登録変更は原則として本人申告となっておりますが、支部、同期会、友人からの届け出も申告者が明記されている場合は受け付けます。

○次に該当される方は本部へご連絡ください

他大学で博士号、修士の学位を授与された方。国会議員、市町村長、県議会議員等に選出・再選された方。叙勲を授与された方、ご逝去された方など。情報提供者を特定できるよう電話以外にご連絡下さい。

○支部会、合同地区同窓会、同期会など開催されましたなら、その報告を写真と共に本部へお送り下さい。極力会報に掲載致します。

同窓会関係情報

○受勲者

（本部に届け出のみを掲載）
 平成24年春生存者叙勲（平成24年4月）

大学7期 西谷 悦夫【黄綬褒章】

○訃報

- 桑島吉夫（専門10期 元同窓会理事 平成23年12月逝去）
- 小川重行（専門6期 元同窓会副会長 平成23年12月逝去）
- 江崎哲哉（専門7期 前熊本県支部長 平成24年6月逝去）

母校関係情報

■ 母校入学試験結果

平成24年度入試では、獣医保健看護学科・動物科学科・食品科学科の一般入試（第一回）の試験会場を東京、大阪、仙台、広島の四会場からの選択に変更した。

平成25年度入試では、獣医保健看護学科・食品科学科の入試に編入学入試を、食品科学科の入試にセンター試験利用入試（第二回）を設定した。

また、獣医学科の一般入試（第一回）では、試験会場を東京、大阪に加え、福岡の三会場から、獣医保健看護学科・動物科学科・食品科学科の一般入試（第一回）では、試験会場を東京、大阪、仙台に加え、福岡の四会場からの選択に変更した。

平成24年度入学試験結果

平成24年度母校入学試験結果

試験区分	学科	志願者数		受験者数		合格者数		倍率
		平成24年度	平成23年度	平成24年度	平成23年度	平成24年度	平成23年度	
〈推薦〉	獣医	99	111	95	107	24	21	3.96
	保健看護	83	76	82	76	30	27	2.73
	動物	42(2)	37(1)	42(2)	37(1)	29(2)	26(1)	1.45
	食品	33(14)	29(15)	33(14)	29(15)	30(14)	29(15)	1.10
〈社会人〉	獣医	6	9	5	7	1	1	5.00
	保健看護	0	0	0	0	0	0	0.00
	動物	0	0	0	0	0	0	0.00
	食品	0	0	0	0	0	0	0.00
〈帰国〉	獣医	1	3	1	3	1	1	1.00
	保健看護	0	0	0	0	0	0	0.00
	動物	0	1	0	1	0	1	0.00
	食品	0	0	0	0	0	0	0.00
〈後継者〉	獣医	18	8	18	8	4	5	4.50
〈学士〉	獣医	38	43	38	43	2	3	19.00
	保健看護	0	0	0	0	0	0	0.00
	動物	0	0	0	0	0	0	0.00
	食品	0	0	0	0	0	0	0.00
推薦 + 特別	(小計)	320	317	314	311	121	114	—
第1回一般入試	獣医	927	926	927	924	101	105	9.18
	保健看護	406	420	396	415	101	103	3.92
	動物	474	410	463	403	158	140	2.93
	食品	263	247	256	241	116	117	2.21
	(小計)	2,070	2,003	2,042	1,983	476	465	—
センター試験	獣医	630	381	630	381	47	45	13.40
	保健看護	219	201	219	201	41	40	5.34
	動物	210	172	210	172	20	21	10.50
	食品	137	127	136	127	20	20	6.80
	(小計)	1,196	881	1,195	881	128	126	—
第2回一般入試	獣医	463	491	415	408	19	16	21.84
	保健看護	62	74	61	72	9	8	6.78
	動物	54	105	44	101	27	5	1.63
	食品	60	60	50	50	6	9	8.33
	(小計)	639	730	570	631	61	38	—
総合計		4,225	3,931	4,121	3,806	786	743	—

学科コード	地区	入学者数
獣医学科	北海道	3
獣医学科	東北	5
獣医学科	関東甲信越	66
獣医学科	東海	6
獣医学科	近畿	7
獣医学科	中国	0
獣医学科	四国	2
獣医学科	九州・沖縄	7
獣医学科	その他	0
獣医保健看護学科	北海道	1
獣医保健看護学科	東北	2
獣医保健看護学科	関東甲信越	83
獣医保健看護学科	東海	6
獣医保健看護学科	近畿	5
獣医保健看護学科	中国	2
獣医保健看護学科	九州・沖縄	0
獣医保健看護学科	その他	1
動物科学科	北海道	2
動物科学科	東北	2
動物科学科	関東甲信越	85
動物科学科	東海	3
動物科学科	近畿	5
動物科学科	中国	0
動物科学科	四国	1
動物科学科	九州・沖縄	2
動物科学科	その他	0
食品科学科	北海道	0
食品科学科	東北	0
食品科学科	関東甲信越	85
食品科学科	東海	4
食品科学科	近畿	0
食品科学科	四国	0

平成24年度入学者数	
獣医学科	96名
獣医保健看護学科	100名
動物科学科	100名
食品科学科	89名
合計	385名

※ () 内は指定校推薦数

■ 教員人事(平成23年12月1日～平成24年11月30日)

○ 新任(平成24年10月1日付) 助教 越智 広樹(獣医微生物学)

○ 新任(平成24年4月1日付) 講師 藤平 篤志(実験動物学)

助 教 梶崎 敏彦(英語学)

助 教 加藤 卓也(野性動物学)

白石 純一(動物生産化学)

○ 再雇用(平成24年4月1日付) 准教授(嘱託) 西谷 次郎(システム経営学)

○ 昇任(平成24年10月1日付) 教授 和田 新平(水族医学)

特任教授 吉村 史朗(獣医学部)

○ 昇任(平成24年4月1日付) 教授 羽山 伸一(野性動物学)

近江 俊徳(獣医保健看護学基礎部門)

小澤 壯行(システム経営学)

太田 能之(動物生産化学)

濱部 浩一(運動科学)

吉村 格(付属牧場)

- 片山健太郎 (獣医生理学)
- 道下 正貴 (獣医病理学)
- 野瀬 出 (比較発達心理学)
- 落合 和彦 (獣医保健看護学基礎部門)
- 小林 淳 (獣医保健看護学応用部門)
- 皆上 大吾 (獣医保健看護学臨床部門)
- 三浦 孝之 (乳肉利用学)
- 昇任 (平成 24 年 1 月 1 日付)
- 教授 袴田 陽二 (獣医保健看護学基礎部門)
- 配置換 (平成 24 年 4 月 1 日付)
- 付属動物医療センター 講師 川角 浩 (実験動物学)
- 定年退職 (平成 24 年 3 月 31 日付)
- 教授 福所 秋雄 (獣医保健看護学基礎部門)
- 木村 信熙 (動物栄養学)
- 菅原 盛幸 (動物生産化学)
- 藤吉 憲生 (英語学)
- 准教授 西谷 次郎 (システム経営学)
- 退職 (平成 24 年 3 月 31 日付)
- 助教 原田 和記 (獣医微生物学)
- 名誉教授称号授与 (平成 24 年 4 月 1 日付)
- 木村 信熙
- 再任 (平成 24 年 10 月 1 日)
- 学長 池本 卯典
- 特任教授 清水 一政 (獣医学部)

平成24年度学生表彰

学長賞他受賞者

代表者種別	学科	学年	氏名
学長賞	獣医学科	6 年	八木 智子
学長賞	獣医保健看護学科	4 年	石田 沙恵
学長賞	動物科学科	4 年	小淵 智子
学長賞	食品科学科	4 年	井上 航
榊賞	動物科学科	4 年	清水 萌子
学長褒賞	獣医保健看護学科	4 年	植木 智也
社)日本獣医師会褒章	獣医学科	6 年	佐藤 由佳
同窓会長賞	獣医学科	6 年	本多 寛子
同窓会長賞	獣医保健看護学科	4 年	岡村 恵里子
同窓会長賞	動物科学科	4 年	梅田 世奈
同窓会長賞	食品科学科	4 年	高橋 洋平

■平成23年度学生表彰
 平成23年度の各学生表彰が下記のように決定した。
 学長賞、社団法人日本獣医師会褒賞、同窓会長賞は最終学年を対象として選出され、武蔵野賞は各学年から選出される。授与は最終学年は学位記授与式にて表彰され、在学生は入学式にて表彰された。尚、本年度は学長褒賞が1名授与された。(別表参照)

武蔵野賞受賞者

動物科学科	4 年	金子 美里
動物科学科	4 年	福井 伶奈
動物科学科	4 年	岡崎 綾乃
食品科学科	2 年	桑井 和奈
食品科学科	2 年	奥田 貴信
食品科学科	2 年	高久 未樹
食品科学科	3 年	白倉 敏子
食品科学科	3 年	宮本 友香
食品科学科	3 年	栗田 裕己
食品科学科	4 年	斉藤 善紀
食品科学科	4 年	土屋 りえ
食品科学科	4 年	佐藤 絢

獣医保健看護学科	2 年	松尾 真希子
獣医保健看護学科	2 年	池田 美奈子
獣医保健看護学科	2 年	杉浦 奈都子
獣医保健看護学科	3 年	平松 朋子
獣医保健看護学科	3 年	石田 美保
獣医保健看護学科	3 年	青木 幸奈
獣医保健看護学科	4 年	兼田 裕希
獣医保健看護学科	4 年	松永 のどか
獣医保健看護学科	4 年	大坂 優衣
動物科学科	2 年	金子 一規
動物科学科	2 年	安田 紗紀恵
動物科学科	2 年	山田 萌
動物科学科	3 年	田島 広大
動物科学科	3 年	根本 真有
動物科学科	3 年	小沢 聡恵

獣医学科	2 年	内海 卓也
獣医学科	2 年	藤原 万里子
獣医学科	2 年	大西 悠太
獣医学科	3 年	林 麻央
獣医学科	3 年	杉浦 壮大
獣医学科	3 年	西村 友璃
獣医学科	4 年	羽原 誠
獣医学科	4 年	越智 葵
獣医学科	4 年	萩原 文乃
獣医学科	5 年	戸上 絵理
獣医学科	5 年	上原 裕司
獣医学科	5 年	竹下 恭平
獣医学科	6 年	赤津 佳菜子
獣医学科	6 年	鶴飼 正保
獣医学科	6 年	田中 優

平成23年度 獣医師国家試験について

平成23年度の獣医師国家試験(第63回目)は、平成24年2月21日・22日の2日間、北海道・東京・福岡の3箇所の会場で実施された。東京会場は、江東区にあるTOC有明ビルで実施された。

現在、獣医師国家試験は、必須問題50問、学説試験160問、実地に関する試験120問とし、多肢選択方式(マークシート)によって行われている。第1日目は必須問題試験と学説試験が実施され、第2日目は実地試験であった。

平成23年度の本学学生の獣医師国家試験合格率は、表に示したように98・9%と全国16大学の獣医学科で第2位の高い合格率であった。第1位は、鹿児島大学の100%であったが、鹿児島大学の受験者数はわずか29名、本学の場合は受験者数91名中90名もの学生が合格し、本学の合格率もほぼ100%であったと言っても過言ではないと感じている。また、第61回および第62回の獣医師国家試験においても、本学学生の合格率は、それぞれ98・9%、90・5%とこの3年間90%以上の合格率を維持している。

本学では、教員による獣医師国家試験対策委員会があり、獣医学科長、6年生担

大学別獣医師国家試験の結果

区分	大学名	第63回(平成23年度)			第62回(平成22年度)			第61回(平成21年度)		
		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
新卒別	北海道大学	44	41	93.2%	42	40	95.2%	42	39	92.9%
	帯広畜産大学	44	42	95.5%	39	37	94.9%	40	40	100.0%
	岩手大学	33	28	84.8%	32	31	96.9%	35	34	97.1%
	東京大学	35	32	91.4%	33	32	97.0%	26	26	100.0%
	東京農工大学	37	36	97.3%	42	36	85.7%	38	32	84.2%
	岐阜大学	34	31	91.2%	31	26	83.9%	32	30	93.8%
	鳥取大学	42	40	95.2%	35	33	94.3%	35	34	97.1%
	山口大学	31	30	96.8%	34	31	91.2%	29	27	93.1%
	宮崎大学	35	34	97.1%	26	21	80.8%	33	28	84.8%
	鹿児島大学	29	29	100.0%	34	31	91.2%	35	32	91.4%
	大阪府立大学	42	38	90.5%	45	41	91.1%	45	42	93.3%
	酪農学園大学	141	118	83.7%	131	126	96.2%	139	126	90.6%
	北里大学	145	136	93.8%	148	135	91.2%	137	130	94.9%
	日本獣医生命科学大学	91	90	98.9%	95	86	90.5%	87	86	98.9%
	日本大学	137	117	85.4%	141	124	87.9%	134	123	91.8%
麻布大学	144	126	87.5%	164	143	87.2%	153	131	85.6%	
新卒者数計	1,064	968	91.0%	1072	973	90.8%	1040	960	92.3%	
既卒者	197	91	46.2%	197	75	38.1%	275	147	53.5%	
受験資格認定者	5	1	20.0%	6	4	66.7%	6	4	66.7%	
合計	1,266	1,060	83.7%	1275	1052	82.5%	1321	1111	84.1%	

任、5年生の担任を含め20名の獣医学科教員が委員となって、獣医師国家試験の勉強に励む6年生をサポートしている。さらに、この委員会とは別に、獣医学教育促進室が設置されており、国家試験対策の一部を担っている。6年生は9月末から、約10

名ずつの小グループに別れて、国家試験勉強に専念する。10月上旬からは、国家試験対策の「総合獣医学」の講義が始まり、11月下旬まで、各科目担当の先生によって講義が実施され、6年生は国家試験勉強に必要な知識を再確認することができる。また、国家試験のトレーニングを目的に、11月下旬と1月下旬に国家試験の模擬試験を学内で実施している。この模擬試験の結果を参考に、学生は不足している箇所を認識し、最終的な試験勉強に取り組み。これらの国家試験対策を今年度も実施し、6年生のサポートを行っており、6年生は日々勉強に励んでおり、平成24年度の第64回 獣医師国家試験(平成25年2月19日・20日)の合格率も良い結果を確信している。

第28回学術交流会

第28回(平成24年度)日本獣医生命科学大学学術交流会「トップを目指して！」は、平成24年10月21日(日)午前9時50分から、名古屋ダイヤビルにて、2会場を設定して開催された。第1会場では左向敏紀実行委員長の開会挨拶の後、池本卯典学長の講演「日本獣医生命科学大学の現状と未来」があり、引き続き、平成23年度梅野信吉賞受賞者である長谷川大輔講師(獣医放射線学教室)による特別講演「てんかん研究とMRI」が行われた。

本会では、本学関係者による最新事情の報告の他、地元の愛知県から栗木允男氏(株式会社クレストZ32期)より「中部圏の畜産事情」、白石徹氏(愛知県農業総合試験場V38期)より「飼料中NDF水準と抗酸化機能性物質の給与が乳牛の繁殖成績に及ぼす影響」の2題が発表された。

最近教授に昇格された太田能之教授(動物生産化学教室)からは「ニワトリを用いた初期栄養の研究とその応用」、吉村格教授(付属牧場)からは「附属牧場の歩み」と題した講演があった。

また、動物医療センターの新旧院長講演として、両教授の得意分野の講演があった。本年度退職予定の多川政弘教授(獣医外科学教室)は「会陰ヘルニア整復術のコ

ツ」、新院長の小山秀一教授(獣医内科学教室)は「手術前の循環機能チェックポイント」と題した競演であった。

「甲状腺疾患の最新事情」と題したランチョンセミナーは、森昭博助教(獣医保健看護学科臨床部門)、西飯直仁准教授(岐阜大・獣医内科学研究室)が講演した。

いずれの講演も専門外の方でも理解しやすい内容で、多くの方から質問があり、予定時間を超過するほどの盛況であった。第2会場においては名古屋近郊の動物看護師を対象とした、獣医保健看護学科の教員6名による卒後教育講演「出前「日曜塾」」が開催された。



なお、出席者は大学教員および同窓会の
方等、合わせて120名であった。

学術交流会終了後、キャッスルプラザに
て懇親会がもたれ、懐かしい顔ぶれとの再
会を喜び親交を深めるとともに、同窓会の
ますますの発展を誓い合った。

平成25年度の交流会は本学にて開催され
る予定である。多くの先生、同窓生および
学生の方々のご参加をいただきたくお願い
申し上げます。

平成23年度

梅野信吉賞受賞者決定

平成23年度の梅野信吉賞の受賞者は獣医
放射線学教室・長谷川大輔講師に決まっ
た。長谷川先生は平成11年3月の本学卒業
生（獣医学科47期）で、卒業後は本学大学
院に進学、大学院博士課程終了（学位取
得）後、獣医学科・獣医放射線学教室・助
教に奉職し、現在にいたっている。今回の
受賞テーマは「てんかんとMRIを主軸と
した脳疾患の基礎的・臨床的研究」である。

「てんかん」の研究は長谷川先生が大学
院以来のライフワークとされている研究
で、この関連研究で、文部科学省科学研究
費補助金若手A研究に採択された（本学で
初）のをはじめとして、この間の研究内容

は10数編の英文学術論文として発表され、
非常に高い評価を受けている。特に機能的
MRIと呼ばれる拡散強調画像を用いた解
析法で、てんかん発作焦点の検索や潜在的
な発作による二次性脳損傷（発作性脳損
傷）視覚化を行い、発作焦点域での異常を
捉えることに成功している。こうした技術
は、獣医領域のみならず、人のてんかん画
像診断にも有益な情報を提供し、さまざま
基礎研究、臨床研究に活用されている。ま
た、犬の特発性てんかんにおいて、片側海
馬の委縮が認められることを初めて見出
し、人に比べれば稀であるが、犬のてんか
んでも海馬委縮が生じ発症の一因である可
能性を明らかにしたことも評価されてい
る。現在は、特発性、遺伝性てんかんモデ
ルとして遺伝性てんかん猫の解析を進めて
いる。この猫コロニーは2008年に長谷
川先生らによって発見された系統で、常染
色体性劣性遺伝で人の内側側頭葉てんかん
に相当するてんかん発作を発現していると
される非常に貴重なものである。この遺伝
性てんかん猫コロニーの研究を通じて、さ
らに重要な成果が生み出されることが期待
されている。

平成23年度 学位記授与式

平成24年3月12日（月）午前10時から、
日本獣医生命科学大学「平成23年度学位記
授与式」がアリーナにおいて挙行された。

午前中に学部、午後には大学院の授与式が
それぞれ行われた。

午前中の学部学位記授与式では、獣医学
科95名、獣医保健看護学科91名、動物科学

科85名、食品科学科79名の合計350名に
学位記が手渡された。

午後からの大学院学位記授与式では、獣
医生命科学研究所獣医学博士課程修了者及
び論文審査合格者15名、獣医保健看護学専
攻修士課程修了者10名、応用生命科学専攻
博士前期課程修了者及び論文審査合格者7
名の合計32名に学位記が手渡された。



学長挨拶

■平成24年度 入学式

平成24年4月6日(金)午前10時から「日本獣医生命科学大学入学式」がアリーナにおいて挙行された。

獣医学専攻博士課程9名、獣医保健看護学専攻博士前期課程6名、同後期課程2名、応用生命科学専攻博士前期課程12名、獣医学科96名、獣医保健看護学科100名、動物科学科100名、食品科学科89名の合計414名が入学した。



中條同窓会長より入学記念品の贈呈

■平成24年度 体育祭

平成24年10月10日(水)、晴天の中、武蔵野陸上競技場に体育会や研究室を中心とした学生約300名が参加し開催された。各チームとも日頃の成果を發揮するべく各種目に熱心に取り組んでいた。



仲良くイチ、ニツ・イチ、ニツ



学長も走る

■平成23年度 卒業生進路動向

平成23年度卒業生の進路動向を学科別にみると次のような結果であった。

獣医学科では就職者のうち小動物臨床の獣医師就職者が72・8%、公務員獣医師、産業動物獣医師の就職者には23・4%と前年度とほぼ同じ傾向にあるが、小動物臨床志向が若干減少した分、公務員、産業動物獣医師が若干上昇している。また、約5%が企業の研究・検査等の技術系に就職している。

獣医保健看護学科では就職者のうち、大半は例年どおり小動物臨床の動物病院看護師であるが、47・9%と前年度から約7%減少しており、製薬、ペットフード、臨床検査等の企業系への就職が42・3%と、約20%以上上昇し、人気傾向にある。

動物科学科では就職者のうち畜産業・農業関係へ16・2%、化学・飼料・薬品系製造業へ28・9%、農業関係団体や公務員に10・2%、動物実験管理に19・6%と職種への偏りなく、幅広く就職している。

食品科学科では就職者のうち食品製造業が59・1%と多く、食品流通・卸・小売等にも32・8%が就職し、生産・製造・研究に関する自己の学業の目指してきた職種に就職している。また食品衛生監視員などの公務員志望者も増えている。

最終的な就職希望者の就職率は、獣医学科84・5%(前年比3%上昇)、獣医保健看護学科93・2%(前年比2・6%上昇)、動物科学科96・4%(前年比3・6%上昇)、食品科学科92・6%(前年比4・2%上昇)となり、高い水準を維持している。

また大学院生への進学希望者の進学率は、他大学院進学も含め、獣医学科100%、獣医保健看護学科75%、動物科学科100%、食品科学科90・9%であった。本学では、平成23年度8月に、学生の進路指導やキャリア形成に特化した「キャリア支援センター」を設置したことにより、学生への対応、進路対策など円滑に行われるようになった要因となっている。

■合同教育棟の地鎮祭

130周年記念事業である合同教育棟の地鎮祭が、平成24年7月14日午前11時より執り行われた。同窓会から会長始め役員8名が出席した。



玉串を奉納する中條会長

■平成24年度 動物慰霊祭

平成24年11月1日(木) 正午より本学「仁畜の碑」前にて、平成24年度動物慰霊祭が、無宗教献花方式をもってしめやかに執り行われた。高橋係長の開式の言葉に続き黙祷が捧げられ、続いて池本学長より「本日あらためて実験動物の役割とその貢献を認識し、犠牲となった多くの動物達に心から感謝の意を捧げたい」と、また、学生代表上月遥香学友会会長より「動物と接するに当たり常に学生として学ぶ目的を明確に持ち、真摯な態度と感謝の気持ちを忘れない」との追悼の言葉が読み上げられた。池本学長他の指名献花の後、教職員、学生の参列者が献花し、動物達の冥福を祈った。



■平成24年度 日獣祭

平成24年11月3日(土)、4日(日)に本学において、第63回日獣祭が開催された。昨年、一昨年と天候に恵まれなかったが、本年度は2日間とも晴天に恵まれ、初日2、631名、2日目3、593名、合計で6、224人もの来場者があった。



日獣祭実行委員が半年かけて準備を行ってきた数々の催し物、研究室やクラブ・サークルの展示、音楽系サークルの演奏等大勢の来場者の前で披露された。中でも、ケネルクラブが行ったペットショーでは、本年度は聴導犬のデモンストレーションも行われ、沢山の参加者と見物者及びそのペットたちで会場が埋め尽くされた。

正門付近の賑わい



日頃の練習の成果を



各研究室の発表

就職戦線と 福島産りんご

日本獣医生命科学大学学長 池本 卯典



福島産りんごの輸出が決まり、福島市松川町で、11月20日にタイに向けた出荷が始まった。福島県のみならず東北日本では安堵の声に湧いている。今年9月タイ国に輸出した桃が好評で、タイのバイヤーから福島の果物をもっと扱いたいと声が掛かったらしい。福島県は『海外での高評価が風評被害の払拭につながれば』と期待している。12月14日～16日の3日間、首都バンコクの大規模スーパーで販売される予定と聞く。

大学では、就職の最盛期を迎えている。昨年度は動物科学科の100%を頂点に、食品科学科、動物科学科、獣医保健看護学科、獣医学科のいずれも99%を超えた。メディアに華々しく採り上げられたりはしないが、全国783大学中、屈指であること

に間違いのないと思う。24年度の卒業生は今売出しの真最中、11月14日現在の内定率は、動物科学科48%、食品科学科60%、獣医保健看護学科56%、獣医学科66%、とキャリア支援センターは教えてくれた。同窓会の皆様にも就職バイヤーをお願いしているが、その成果を公表できないのは残念であり、早急と同窓会員諸兄の就職バイヤー価値を学生に知らせなければならぬと考えている。

本学の就職支援は、他大学に比較して決して劣ってはいない。手許にある主要26大学の財政規模や学生数の紹介(雑誌「エコノミスト」に掲載)によれば、日本大学の全学生定員は約74,000人、東京女子大学の全学生定員は約4,000人、仮に4分の1の学生が新学士として卒業すれば、日大は約19,000人、東京女子大でも1,000人の就職先を確保しなければならぬ。本学では僅か約370人の就職を確保すれば万歳である。現在、4人のセンター職員と藤沢委員長を中心とした就職担当委員は、教育・研究を疎かにすることなく、年間通じて就職先の開拓に努め成果を収めている。

新入生募集の要諦は入口と出口、これは学生募集の合言葉。そこで同窓生諸兄へお願いは、日本獣医生命科学大学の真の姿をアピールして頂きたい。輝ける大学とは清冽で創造力と感性の豊かな学生を育

て、日本の未来に貢献する若者達の集団でなければと願う昨今である。何卒よろしくご協力下さい。

新教育棟の建設計画

日本獣医生命科学大学学長 池本 卯典

同窓生の皆様の多くは、獣医学科と動物(畜産)科学科は第1校舎で、食品(食品工学)科学科は第2校舎で学ばれたと思います。現在2学部4学科すべて第1校舎で講義を行ない、動物科学科、獣医学科、獣医保健看護学科の研究室及び実習室は第1校舎に設置してそれぞれ機能し、食品科学科の研究室と実習室は第2校舎に置いています。なお、動物科学科の臨床すなわち牧場実習は富士アニマルファーム。獣医学科と獣医保健看護学科の臨床実習は動物医療センターと富士アニマルファームで実施しています。近年、学生の質の向上に当り法人の深い理解により教育環境は着実に進化を続けているところです。

1. 教育施設の整備計画

2学部4学科の教育・研究・臨床の実践は可及的に同一キャンパスで行いたい。これは学生・教員・管理部門の共通の願望といえましょう。それには、適度の空間と施

設の整備が先決です。幸い法人の御理解もあり新築したB棟4階に5階の増築が認められ、約2億円の増築費により平成23年の年末に着工(北野建設)して平成24年9月には完成。24年後期から大講義室(約300名収容)2室と中講義室(約120名収容)1室が活用できるようになりました。そこで、本館の2階講義堂と教育用施設はB棟5階に移し、本館の2階には会議室を2室、客員教授室とセミナー室を配置し有機的に活用しています。

2. 合同教育棟設置計画の端緒

学校法人日本医科大学は、2大学(日本医科大学と本学)4病院(千駄木・武蔵小杉・永山・北総)、1専門学校(医学部付属看護専門学校)、1研究所(老人病研究所)を経営・管理・維持し、23年度の消費収支は、帰属収入約820億円、消費支出約810億円と報告されており、黒字経営を維持しています。

因みに本学の帰属収入約43億円、消費支出約38億円、約5億円の黒字を計上しました。主な収入源は学納金約30億円、寄付金約5,000万円、補助金5・3億円、事業収入約4・4億円(主に動物医療センター)であります。従って、法人全体の財源は病院依存型、その中で本学は学納金依存型(69%)といえましょう。

御案内のように、学校法人日本医科大学

は Action Plan 21 計画の実施中
 であります。医学部教育棟・大学院棟・千
 駄木病院の改・新築計画に加え本学の教育
 棟・合同教育棟なども、Action P
 lan 21 計画（本学では 130 周年記念計
 画）に基づく展開であります。

先輩諸姉兄が体育施設として馴染まれた
 校庭（運動場）に、地下 1 階地上 7 階の合
 同教育棟を新設し、その一部を医学部に 1
 年次を収容することとなりました。その理
 由の概略は、川崎市武蔵小杉地区は人口の
 激増地域であり、初等教育の教育施設が不
 足し、その補充が急務のようです。しか
 し、市財政の関係もあり、現在の日本医科
 大学医学部の新丸子校舎、すなわち基礎科
 学教育施設を川崎市は武蔵小杉地域の初等
 教育施設として長期借用を要請したよう
 です。昨今は大学と地域連携は必須であり、
 本学においても武蔵野地域自由大学・三鷹
 ネットワーク大学・武蔵野市寄付講座な
 ど、多くの地域連携を行っているところで
 す。学校法人日本医科大学としても、川崎
 市の要望に応えることになり、医学部基礎
 科学課程の教育施設（新丸子校舎）を川崎
 市に貸与し、教育機能の一部を武蔵境校舎
 に移転する計画を理事会に提案され了承さ
 れて今日に至りました。

3. 合同教育棟建設の現状

平成 24 年 7 月 14 日《合同教育棟（仮称）》

建設の地鎮祭は、赫理事長を祭主として厳
 粛に行われて着工し建設中です。完成は平
 成 25 年 9 月頃と予定されています。設計は
 株式会社日建設計、施工は北野建設株式会
 社に落札し、施工監督は株式会社日建設計
 であります。

本学では設計段階より、阿久澤応用生命
 科学部長を委員長として鋭意検討して頂
 き、本学の要望に副う形で計画は展開して
 います。

(1) 合同教育棟建築の概要

① 構 成…地下 1 階、地上 7 階

② 床面積…17,000㎡

③ 食品科学科…研究室・教室など

動物科学科…研究室・教室など
 〔4～7 階〕

獣医保健看護学科…研究室・教室
 など

④ 全学の学生体育・厚生施設（柔
 道・剣道・空手道・居合等の道場）
 など〔地階〕

⑤ 日本医科大学医学部基礎課程科科
 …研究室・教室・事務室など〔2・
 3 階〕

⑥ 大学事務部門科…事務部門・施設
 管理・大学院・庶務・学生・入試広
 報・キャリア支援・保健・学生相
 談室など〔1 階〕

(2) 図書館

B 棟 1 階と 2 階の一部を占める本学

の図書館施設
 に、新丸子校舎
 の蔵書と図書室
 の事務室を合体
 し、B 棟 2 階全
 体を学生の閱
 覧・学習室に改
 造することにし
 ました。

(3) 体育施設

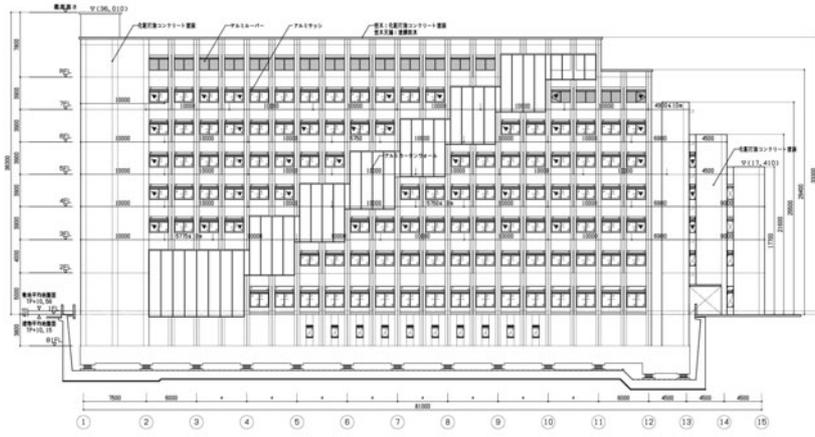
体育施設《ア
 リーナ》を本学
 と医学部基礎科
 学課程の学生が
 共用することに
 なりました。ま
 た、医学部の全
 学生にも開放し
 て共同利用をす
 ることになりま
 す。なお、本格的な体育・運動施設の
 設置は今後の課題であり、北総地区を
 含め検討される筈であります。

(4) 馬場と厩舎
 馬場と厩舎は、現在第 2 校舎の用地
 内にあります。設置当時の第 2 校舎は
 畑に囲まれた農地に建っていました。
 それが、急速な都市化により現在は住
 宅地内です。従って、環境基準も農地
 型から都市型に変わり、馬場や厩舎は環

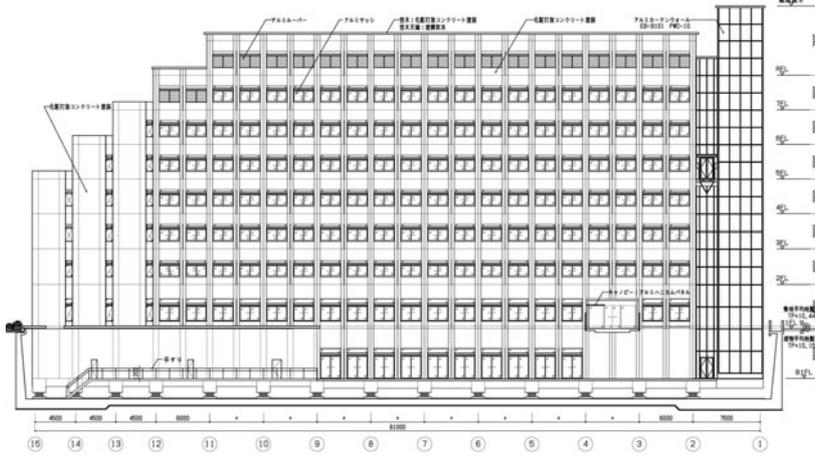
合同教育棟完成予定図



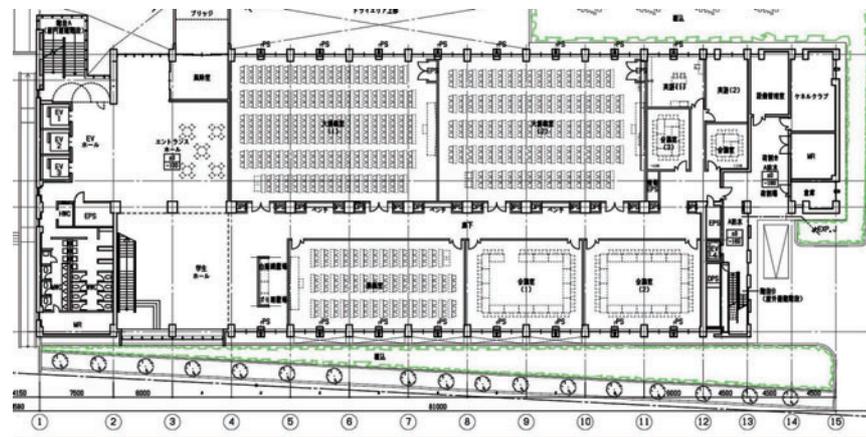
境基準に違反すると再三にわたり
 基準の遵守を要望され、苦境に立つて
 いるところです。加えて合同教育棟の
 建築資金対策として第 2 校地の売却案
 （未定）もあり、馬場と厩舎並びに第
 1 校舎にあった運動場の確保が必要と
 なりました。そこで、西東京市の田無
 にある東京大学農学部田無農場の一部
 売却が察知されたので、法人の赫理事
 長・荒木学長（当時）と共に、当時の



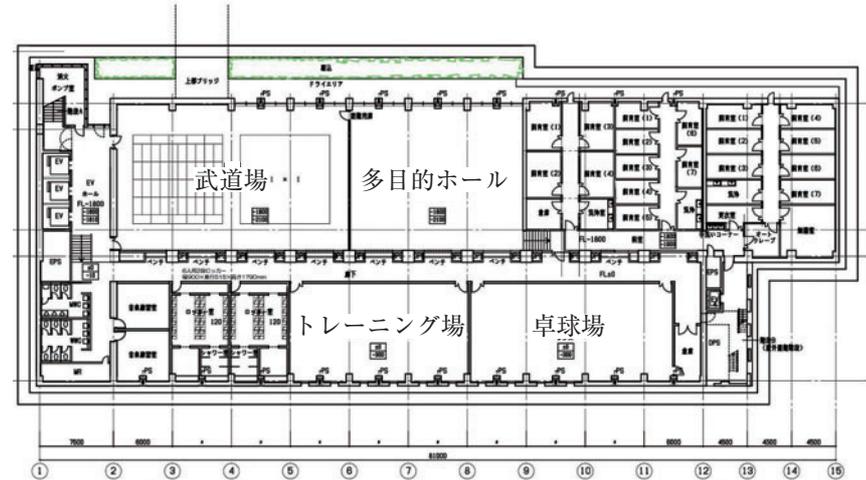
合同教育棟南側立面図



合同教育棟北側立面図



合同教育棟1階



合同教育棟地下1階

(5) 建設資金計画
建設資金計画は、すべて法人側で決
います。

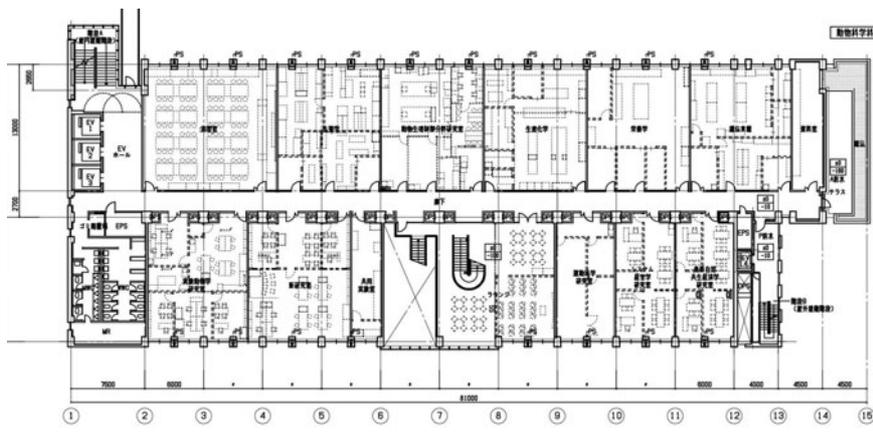
東京大学小宮山総長に分譲のお願いに
参りました。その結果、幸い約10、
000㎡を分譲して頂けることになり、
平成27年3月に引渡し、使用開始は平
成28年3月頃と予定されています。国
立大学や文部科学省など複雑な手続な
どの事情もあり、実行が大幅に遅れて
います。

定し実行されます。しかし、当事者の
一員として最大限の協力は必要であ
り、寄付金の募集など同窓会の皆様
にお世話になることが多いと思います。
何卒よろしく御支援をお願い致します。

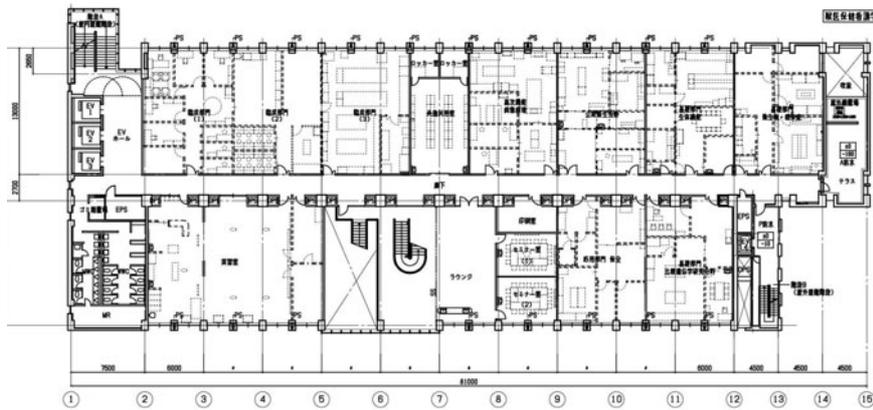
1. 合同教育棟の資金計画等
建設資金計画(概算)
概算総額 55・7億円
① 寄附金 7・0億円

日本獣医生命科学大学 5・0億
円 本学関係者
日本医科大学 2・0億円 日医
大関係者(本計画に対し)
② 自己資金 25・5億円
③ 第二校地売却額 23・2億円(未
定)
〔坪149万円・1、557坪〕

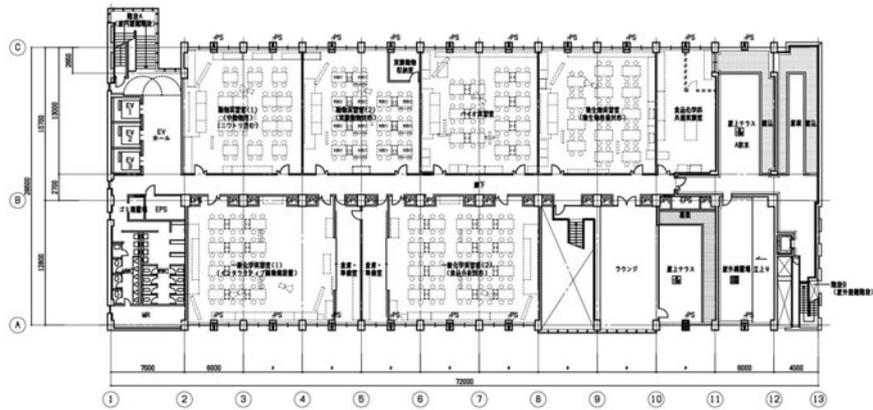
2. 建設費(概算)
概算総額 55・7億円
① 教育棟建築費・外構工事費
〔坪71万円・5、075坪〕
② 設備関係
③ 馬場・グラウンド整備費
④ 用地買収費
〔坪54・5万円・2、850坪〕



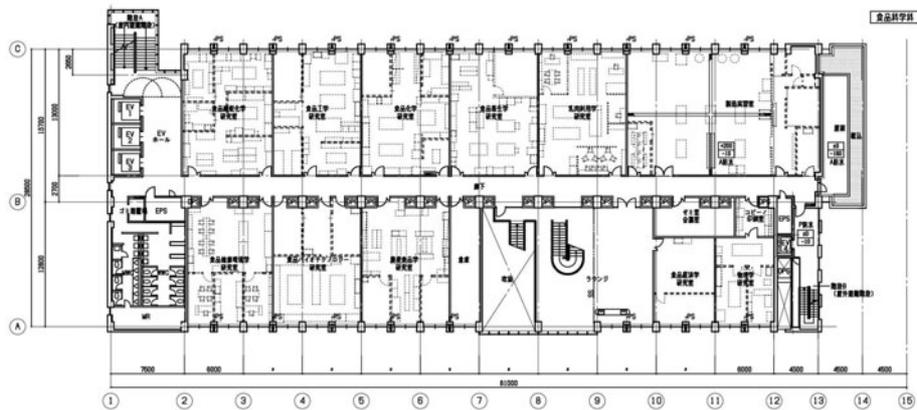
合同教育棟 5 階 (動物科学学科)



合同教育棟 4 階 (獣医保健看護学科)



合同教育棟 7 階平面図 (食品科学学科)



合同教育棟 6 階 (食品科学学科)

2・3階は医学部基礎科学課程 (図面なし)
 (詳細な図面は同窓会ホームページで拡大してご覧ください。)